

## 上海創志企業管理諮詢

勉強会「王牌商道会」を開催  
明治の実業家、渋沢栄一に学ぶ

トランスエージェントの現地法人、上海創志企業管理諮詢(E-mail=kakehi@transagent.cn)が9月4日、中国人営業パーソンを対象とする勉強会「王牌商道会」を上海交通大学で開催した。第5回となる今回は、トランスエージェント代表取締役社長の安藤雅旺氏が、明治時代の実業家で、“日本資本主義の父”とも称される渋沢栄一の経営思想を題材に講演。渋沢栄一の著書「論語と算盤」を紐解きながら“経済と道德の関係”をテーマに解説した。

安藤氏は「商道哲学～渋沢栄一の論語と算盤に学ぶ～」と題して講演、まず、渋沢栄一の経歴について紹介した。渋沢栄一は明治維新が起こった1867年、幕府特使団に従いパリ万博に随行し、この欧州体験により資本主義に開眼。明治新政府で大蔵省の要職を歴任する中、銀行の設立に尽力し、民間資本活用による経済建設を推進した。退官後は企業設立



「経済と道德の関係」を主題に議論が行われた

や、教育、福祉事業にも力を注いだという。

安藤氏は、日本資本主義の確立に多大な貢献をした渋沢栄一が著書「論語と算盤」で強く説いているのが、“経済と道德の調和”であると指摘。正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続できないことを説いた仁義道德や、武士的精神と商才の両備を指す士魂商才を重んじる渋沢栄一の経営思想について解説した。

また、「蟹は甲羅に似せて穴を掘る」と自分の分を守ることを心掛けることや、「富ながらかつ仁義を行い得る例は沢山ある」と仁義と富貴について論じた内容にも言及。講演では、参加者がこれら渋沢栄一の経営思想を踏まえて「経済と道德の合一」、「ビジネスと信用」といったテーマで意見交換を行った。

安藤氏は、「よく中国に初めて駐在する駐在員に対し、『孫子の兵法』や『三十六計』が推薦されるが、私はむしろ、渋沢栄一の経営思想の基で、ビジネスは信頼で成り立つということを確認できる『論語』を読むべきだと思う」と持論を述べ、企業間競争が激しさを増す中国での指南書として勧めた。今回の勉強会ではこのほか、「中国市場開拓のための営業強化」を議題に、参加者によるディスカッションが行われた。

「王牌商道会」は日中の営業の違いを研究することを目的に今年3月に立ち上げた無料セミナーで、毎月様々なテーマを基に営業について研究している。今後も日系企業の中国市場開拓を担う営業パーソンを対象に定期的開催を予定している。